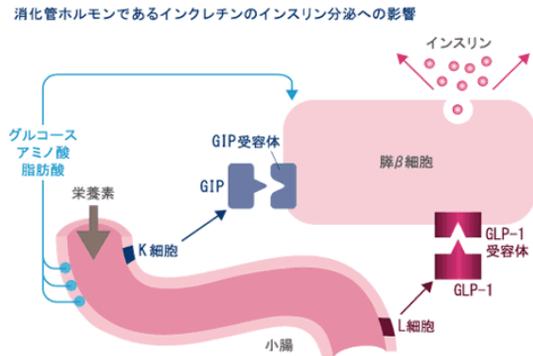


GLP-1受容体作動薬について

1. GLP-1受容体作動薬とは？

食事摂取に伴い、消化管から分泌され、インスリンの分泌を促進するホルモンの総称をインクレチンといい、インクレチンには、**GLP-1**と**GIP**の2種類があります。

GLP-1は、血糖値が上がると小腸にあるL細胞から分泌され、膵β細胞の表面にあるGLP-1受容体に作用し、膵β細胞からのインスリン分泌を促します。
これらの作用に着目し、製剤化されたものがGLP-1受容体作動薬です。



2. GLP-1受容体作動薬一覧

GLP-1受容体作動薬を以下の表にまとめてみました。

商品名	※ピクトーザ 皮下注	ビュデリオン 皮下注用ペン	パイエッタ 皮下注ペン	リクスミア 皮下注	トルリシディ 皮下注 アテオス	オゼンピック 皮下注SD (皮下注)
一般名	リラグルチド	エキセナチド	エキセナチド	リキシセナチド	デュラグルチド	セマグルチド
規格	18mg	2mg	5 μ g 10 μ g	300 μ g	0.75mg	0.25mg 0.5mg 1.0mg (皮下注2mg)
用法用量	0.9mgを維持用量として、1日1回 朝または夕	通常、2mg 週に1回	通常、1回5 μ g 1日2回 朝夕食前	通常、20 μ g 1日1回 朝食前	通常、0.75mg 週に1回	0.5mgを維持用量として、週に1回
適応	2型糖尿病	2型糖尿病 (SU単独) (SU+BG併用) (SU+TZD併用)	2型糖尿病 (SU BG TZD 単独またはいずれか併用)	2型糖尿病	2型糖尿病	2型糖尿病
単独使用	○	×	×	○	○	○
デバイス						

※SU・・・スルホニルウレア BG・・・ビグアナイド TZD・・・チアゾリジン

※赤い文字は、院内採用薬です。ピクトーザは、患者限定薬なので、登録が必要です。

(裏面へ続く)

●ビクトーザ、リクスマア、オゼンピックは、増量の仕方の特徴があります。

ビクトーザ 0.3mgから開始し、1週間間隔で0.3mg→0.6mg→0.9mg

リクスマア 10μgから開始し、1週間以上間隔で15μg→20μg

オゼンピック 0.25mgから開始し、4週間投与した後、0.5mg

3.GLP-1受容体作動薬の特徴

- インスリン製剤とは異なり、血糖値が高くなった時にしか作用しないため低血糖を起こしにくいです。
- 胃排泄運動抑制、摂食中枢抑制などの作用もあるため、食欲低下、体重減少効果もあります。
- GLP-1製剤は、インスリンの分泌をサポートする薬剤であるので、1型糖尿病のようなインスリンが枯渇している患者には適しません。
- GLP-1製剤は、使い始めに、吐き気、下痢、便秘などの胃腸症状が見られることがあります。吐き気などが見られた際は、揚げ物など脂肪分の多い食品は避け、食事を減らすようにしてください。

4.新薬のリベルサス錠

従来、GLP-1受容体作動薬は、注射しかありませんでしたが、2020年6月に世界初の経口薬として製造販売が承認されました。

GLP-1受容体作動薬を経口投与しても、胃内でのペプシン等の消化酵素で分解されてしまい、効果を発揮することができませんでした。

ですが、リベルサスに吸収促進剤のサルカプロザートナトリウム(SNAC)を添加することで、胃内での分解を防ぎ、経口投与を可能にしました。

(用法用量)

通常、1日1回7mgを維持用量とし経口投与。

ただし、1日1回3mgから開始し、4週間以上投与した後、1日1回7mgへ増量します。

(服用方法)



空腹時(1日の最初の飲食の前)に服用してください。起床時がおすすです。



1錠をコップ約半分の水(約120mL以下)とともに服用してください。お茶、コーヒー、服薬ゼリーの使用を控えてください。



少なくとも服用後30分経ってから飲食してください。



湿気や光の影響を受けるため、服用の直前にシートから取り出してください。

(参考文献)

novo nordisk 糖尿病サイト<https://www.club-dm.jp/basic/GLP-1.html>

各薬剤の添付文書参照 日経メディカル

novo nordisk リベルサス錠の服用と保管に関する注意点